Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2024-06-14

ご挨拶

藤井, 勝

(Citation)
歴史文化をめぐる地域連携協議会予稿集,11:1-2

(Issue Date)
2013-02-02

(Resource Type)
conference object

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81004422

ご 挨 拶

神戸大学大学院人文学研究科長
地域連携センター長
藤 井　　勝

第 11 回 歴史文化をめぐる地域連携協議会へのご参加、ありがとうございます。

神戸大学大学院人文学研究科（文学部）では、大学の地域貢献事業の一環として、平成 14 年（2002）11 月、地域連携センターを設置し、それ以来、歴史文化の保全・活用を目的とする自治体や NGO との連携事業を進めてまいりました。各事業をご支援いただいている皆様にあつく御礼申し上げます。

センターでは各年度末に、1 年間の活動を集約する意味をこめて、県内の自治体職員・市民団体代表者・大学関係の方々に一堂に会していただき、歴史遺産の保存・活用について議論する協議会（コンファレンス）を開催しております。これまで 10 回の協議会を開き、今回で 11 回目の開催となります。

さて今年度の協議会テーマは、「地域史を調べること学ぶこと」について焦点をしぼりました。そもそも郷土や地域の歴史を調べ学ぼうとする人びとの活動は、古くから盛んでした。戦前はお国自慢的に郷土を誇ることが中心でしたが、戦後は必ずしもそうでない方向性をもった地域史研究団体などの活動が始まり、そこでは、身の回りの生活を見つめ直し、社会改善を志向する活動も全国的に広がりました。ある調査によると、現在でも全国には 2000 以上の郷土史・地域史研究団体があるといいます。

ところが近年、どの団体でも会員の高齢化や減少により会報や通信の発行が不定期になり、あるいは休会、解散の危機に追い込まれるなどの困難に直面しています。これまでのこうした地域史を調べ学ぼうとする人びとの営為を未来につなげることが重要な課題となっています。

一方、近年、新たなアプローチの仕方で地域の歴史文化に関わる動きもでています。たとえば、兵庫県では、自らの生活する地域固有の歴史文化を掘り起こし、それを若い世代へ継承する目的で大字誌を作成したり、小学生を対象とする社会教育に力を入れる動きが盛んになっています。また、新住民と旧住民の別にこだわることなく両者が一緒になって地域歴史文化を調べ直す開かれた活動（地域マップづくり、地域資料のミニ展示会）がみられます。さらに、襖の下張り文書剥がし活動などを通じ、地域の歴史文化に親しむなど、多様な接し方が現れて、その可能性が注目されます。

戦後盛んになった地域史研究団体の活動と近年の新たな動きは、時代状況や取り巻く環

境、担い手も異なりますが、未来志向や身の回りの生活へのまなざしなどの点で共通するところがあり、それぞれの成果や課題をともに考える手がかりがあるように思います。

また、新しい動きを促し持続させていくにあたっては、行政や大学が大きな役割を果たしています。このように、人びとが自覚的なまちづくりの担い手となるためには、地域の歴史文化を自主的に調べ学ぶ人びとの営為を、行政や大学が支援することが重要です。

そこで、今年度の協議会のテーマは「地域史を調べること学ぶこと　―目的と支援を問い直す―」としました。地域史をめぐる人びとの活動や、それを支える環境の構築などの諸課題を考えることを通じて、地域歴史文化の形成・継承のために、大学・自治体・市民が連携し、何をすべきなのか、何ができるかを考えていきたいと思います。

なお毎年開いておりますこの地域連携協議会は、地域歴史文化に関わるみなさまの相互交流の場であると考えております。協議会の間には、時間をとり、各団体の方々が交流できるコーナーやポスターセッションの場を設けました。多くの方々に交流して頂ければ幸いです。

最後になりましたが、本協議会のご後援を賜りました兵庫県教育委員会、たつの市教育委員会、香美町教育委員会に対してあつく御礼申し上げます。